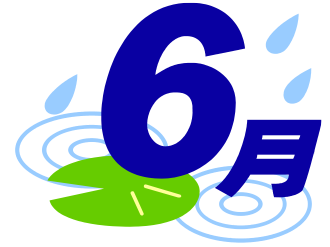




心も体も元気な岡村っ子

おもいやりもち、
かがやく自分を求めて、
むちゅうになって共に学び
みらいを創っていく子



横浜市立岡村小学校・学校だより R8.5.29

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okamura/>



岡村オリンピックが育む「AI時代を生きる力」

副校長 池村 聡一郎

前日から空模様が心配されましたが、今年度も無事に岡村オリンピックを開催することができました。子どもたちが仲間と声をかけ合い、力を合わせ、最後までやり抜こうとする姿は、大きな感動と、結果以上に大切な「学び」を私たちに示してくれました。

初めて運動会を迎えた1年生と先輩になった2年生が、力を合わせて演技や玉入れに取り組む姿は、きらきらと輝いていました。練習のたびに演技の動きがそろい、玉を投げるたびに歓声上がる等、仲間と一緒に頑張る楽しさを全身で表していました。3・4年生は、一本の綱を通して気持ちをひとつにし、全員で力を出し切る喜びを味わっていました。ソーラン節では、力強いかけ声とともに一体感のある演舞が生まれました。5・6年生のフラッグを使った演技では、動きをそろえる難しさを乗り越え、赤青2色の旗が風を切る音から、子どもたちの集中力と協調性が伝わってきました。騎馬戦では、仲間を信じて体を預け、声をかけ合いながら相手に立ち向かう力強い姿が見られました。

休み時間や放課後に練習を重ね、本番当日に力を出し切ったリレーの選手や、事前の準備や当日の役割に責任をもって取り組んだ5・6年生の岡ピ係も、見ている私たちに深い感動を与えてくれました。また、27日に行われた本校独自の種目である「補欠リレー」は、他校にはない素晴らしい取組として、今年も大きな感動を生みました。普段は補欠としてチームを支える子どもたちが、主役としてバトンをつなぎ、全力で走る姿は、「この学校では全員が大切な存在である」ということを体現してくれました。

自分で考える力、仲間と協力して課題を解決する力、互いに認め合い、失敗しても挑戦し続ける粘り強さ—これらはAI時代を生きる子どもたちに必要な力そのものです。学校行事は、その力を「体験を通して」育むことができる、かけがえのない学びの場であると改めて実感させられました。

最後に、「岡村オリンピック」の開催に際し、ご尽力くださったPTA役員並びに各実行委員の皆様と、子どもたちに温かく大きな声援を送ってくださったご来賓の皆様、地域の皆様、そして保護者の皆様に心から感謝申し上げます。